

# 法トーク



## 日本の法曹、IT対応遅過ぎ

弁護士 中山 達樹氏



「人工知能（AI）どころか、日本の法曹はIT（情報技術）の進歩から取り残されている」。こう嘆くのは昨年夏、米国のシンギュラリティー大学に短期留学した中山達樹弁護士だ。2045年に人間とAIの能力が逆転するシンギュラリティー（技術的特異点）が到来するとの認識の下、世界中から集まった起業家らと未来を語り合った。刺激を受けた一方、「日本の司法

界との隔絶を感じざるを得なかった」。

日本で裁判所に提出する書面は紙かファクスしか受け付けられず、原則として電子メールすら使えない。判例のデータベース化も一部だけだ。「米国やシンガポールと比べて著しく遅れている。電話やファクスのみで、メールを使わない弁護士もいる。チャットなどITを使いこなせる弁護士がもっと増えないと」と危機感を募らせる。